



刈田病院ロビーコンサート

(6月9日、公立刈田総合病院)

今回で10回目となるロビーコンサート。吹き抜けの中央ロビーでは「七つの子」や「みかんの花咲く丘」、「長崎の鐘」など、おなじみの曲12曲が演奏され、1曲ごとに大きな拍手が送られていました。



▲病院中が美しい音色で包まれました。

第4回市民シャフルボード大会

(6月18日、市スポーツセンター)

誰にでも気軽に楽しめるニュースポーツ「シャフルボード」。この日は市内から10チームが参加して楽しくプレーしました(優勝:「きらら」、準優勝「ショウヨウスティッチズ」)。



▲笑顔でプレーする参加者の皆さん

第1回「球体人形教室生徒作品展」

(6月26日~7月16日、ギャラリー喫茶「蔵楽」)

人形の関節に球体を使い、自由自在に体を動かすことができる球体人形。展示されている人形は、教室の生徒さんたちが1年かけて作ったものです。その優しい表情は、なぜか作者に似ていました。



▲今にも動き出しそうな作品の数々

美しい森を取り戻そう!!

不忘山で「植林祭」を開催

6月11日、福岡八宮の不忘山地内で南蔵王に美しい森を取り戻そうと、「植林祭」が開催されました。

これは、NPO法人「蔵王のブナと水を守る会」が主催して、平成14年から市と共同購入した土地で毎年開催されており今年で5回目となります。

この日は、市内の企業などのほか、個人や会員など合わせて約160名が参加。会員により事前に下刈り作業がされた約0.5haに、ブナやヤマハンノキなど約1,000本の苗木を次々に植林しました。



▲親子で楽しく植林作業

はなどうろ 花灯路の淡い光に包まれました

尾篋地区でホタルまつりを開催

6月24日・25日の2日間にわたり、福岡蔵本の尾篋地区にある通称「おがる石」周辺でホタルまつりが開催されました。

この催しは、地域全体でホタルの保護や育成活動が続いている「白石薬師堂ホタルの里を守る会」が主催したものです。地区内では期間中、サロン・サンサンが制作した「花灯路」と呼ばれる灯ろうが飾られ、その淡い幻想的な光が訪れた人を楽しませていました。



▲美しい光に優しく包まれました。

デイサービスセンターしらいで交流会

(6月20日、デイサービスセンターしらい)

本郷第一自治会女性部の皆さん10名が施設を訪れ、踊りや手品を披露するなど、利用者の皆さんと楽しく交流しました。

利用者の皆さんは心温まる贈り物に、感謝ひとしおのご様子でした。



▲踊りや手品で楽しく交流!

第10回わんぱく相撲仙南場所

(6月10日、蔵王町立宮小学校屋外土俵)

白石青年会議所が主催する第10回わんぱく相撲仙南場所には、市内の各小学校からも多数の児童が参加。小学2年生の部で大鷹沢小学校の増子悠友くんが横綱(1位)になるなどの活躍を見せました。



▲見事押し出し!

子ども会育成指導者研修会

(7月1日、中央公民館)

各地区から親子やジュニア・リーダーなどが参加して、保科斎川公民館長から、さい川子ども居場所づくりの取り組みについての講話など、新しい子ども会事業のあり方について学びました。



▲ニュースポーツ「キンボール」も体験

働く厳しさを実感!!

白石中学校の2年生が職業体験学習

6月27日から30日までの4日間、白石中学校の2年生133名が、市内など47の事業所に分かれて職業体験学習を行いました。

この体験学習では、働くことの苦労や喜びを知るとともに、社会人としての礼儀や心構えを学ぶことを目的としています。

南保育園では、女子生徒3名が保育士の仕事を体験。元気な子どもたちを相手に、汗びっしょりになって、遊びの相手や食事の世話など、一生懸命取り組んでいました。



▲園児との接し方を学ぶ生徒たち

地方が、白石が進むべき道とは?

文化フォーラム「戦いすんで日は昏れず」

碧水園で7月8日、各分野で活躍したかつてのトップリーダーをパネリストに招いた文化フォーラムが開催されました。仙台市の老舗「福寿司」3代目・岩淵文四郎氏が自身の経験談と「食への思い」について講演した後、前仙台市長・藤井黎氏、現七十七銀行相談役・勝股康行氏、前白石市長・川井貞一氏を加えたパネルディスカッションが行われ、地方の抱える課題や白石の中心市街地の問題についても意見交換が行われました。



▲300人の来場者で埋め尽くされた碧水園

風間市長の「忠」のナニヤカ「忠」



2006 FIFAワールドカップ・ドイツ大会も、6月23日には1次リーグが終了し、決勝トーナメント進出16チーム(国)が決まりました。ベスト16に進出したチームを大陸別に見てみると、ヨーロッパが10チーム、南米が3チーム、アフリカ、北中米カリブ海、オセアニアが各1チーム。我が日本をはじめとするアジアからの進出がなかったのがとても残念でした(前回ベスト4の韓国にも期待していたのですが...)。私はサッカー競技のルールや試合運びなどは詳しくありませんし、あまり興味もないのですが、やはり日本戦だけはテレビの生中継をしっかりと見て、12番目の選手として一喜一憂しました(対ブラジル戦だけは議会当日の早朝だったので、朝のニュースで見ましたが...)。「先制点を入れながら、なぜ残り9分

次のゲームは日本も頑張ってください」と一言。心の余裕がなせる技なのか、選手や国に絶対的な信頼を寄せているためなのか? そういわれてみれば我々は、勝つのが当たり前と勝手に思い込み、結果が良くないと選手や、つ

言っていたかもしれない自分に反省です。「忠」とは、「まごころ、偽りのない誠意」を表す文字です。「中」とは、なか・中身などの意であり、それに「心」が加わり、中身が充実して欠け目のない心を表しま

す。「忠誠を尽くす」という言葉があります。参加したどのチームも「ワールドカップ」を得ることを目的に、国を背負って戦っているわけですが、応援している我々よりも、選ばれし選手や監督の方が悔しいことでしょうか。今は「お

話は変わりますが、なぜ「兄弟都市」ではなく「姉妹都市」と呼ぶのでしょうか? ちなみに当市の姉妹都市は、北海道の「登別市」、神奈川県「海老名市」、オーストラリアの「ハーストビル市」です。
7月号の答え
勘違いによってできたといわれています。ヘソクリは「臍繰り」と書きますが、そもそも臍は「臍麻(へそ)」と書きました。臍麻とは、つむいだ麻糸の糸玉のこと。この糸玉づくりは主に女性の内職とされてきました。つまり、ヘソクリとは「糸玉作りの内職をして作ったお金」という意味です。
なお、このほかにもヘソクリの語源はいくつかあるようです。